

日本学  
研究叢書  
27

— アにおける知の交流 — 越境・記憶・共生 —

以後の世界において、資本は移動する範囲を徐々に拡大し、情報化やグローバル化以後はその加速度をますます強めつつある。それは人間たちの移住の布置関係に影響を及ぼし、文化変容のダイナミズムに地殻変動をらしている。東アジアにおけるさまざまな文化事象を考える際にも、地ジャンルを横断する思考が求められている。個々の地域に固有の出来事える場合でも、それらはエスニックな想像やテクノロジー、経済、メデを介して流布する言説などによって、重層的かつ乖離的に織り合わされる。こうした状況のもと、東アジア圏のさまざまな共同体において分有てきた記憶が、人々の越境を通じて再編成されていくありようを考察すが、学問的に重要な課題となる。また、国家や文化の境界をめぐる摩論争は今日でもなお頻繁に起きているが、そうした境界がむしろ混じり地点に注意を払いつつ、ともに生きるという意味での「共生」を実現しく可能性を探る必要がある。本書は、このような視点から、東アジアにる知の交流の変容を論じたものである（本書「序文」より）。

東アジアにおける知の交流  
— 越境・記憶・共生 —

林淑丹・陳明姿 編

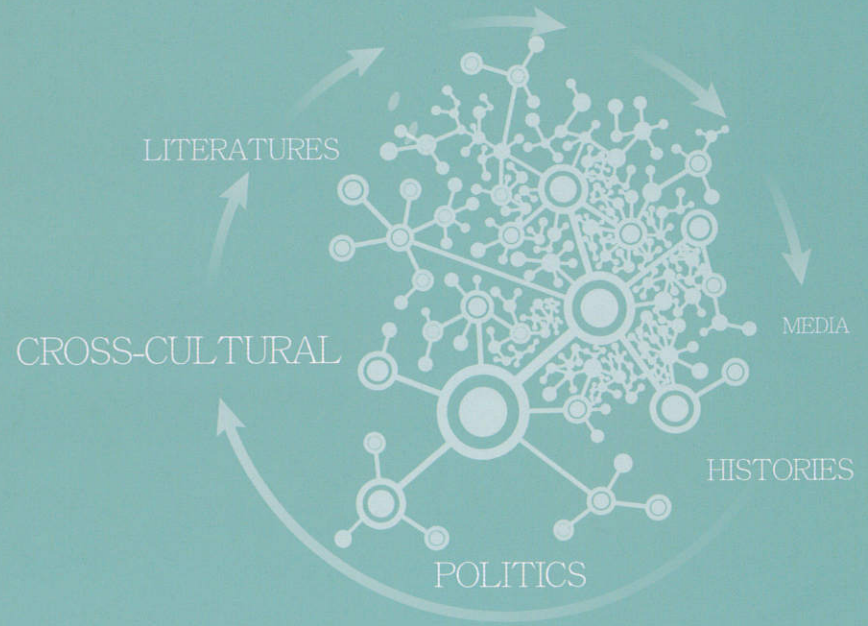


臺大出版中心

日本学  
研究叢書 27

東アジアにおける知の交流  
— 越境・記憶・共生 —

林淑丹・陳明姿 編



臺大出版中心  
NATIONAL TAIWAN UNIVERSITY PRESS

GPN : 1010700354 定價：新臺幣560元

臺大出版中心  
NATIONAL TAIWAN UNIVERSITY PRESS

(3) 日台両国の関連研究機関および東アジアの諸研究機関との連携を促進し、日本研究を国際的に展開する「国際日本学」の構築を目指すこと。

(4) 世界における日本研究の成果を生かした「国際日本学」のもと、台湾固有の文脈を意識した台湾的特色のある国際的日本研究の発展を推進すること。

本書は、「東アジアにおける知の交流—越境・記憶・共生」という視野を軸に、一国内の研究者だけでは捉えきれない問題を取り上げている。とりわけ、異なる国家や文化をめぐる摩擦や葛藤、論争あるいは共同体の記憶を焦点に、過去の出来事がいかに記憶され、分有されていくのかを解明し、そして知の交流の変容や「共生」の実現の可能性を探ることを目的とする。これらの論集では、台湾・日本・中国の学者の問題意識が東アジア全域に及び、台湾が「知の集約拠点」として実証的に有効な研究ばかりを結集したと自認している。

2018年5月27日

『日本学研究叢書』編集委員長

徐 興慶

## 目次

序文	林淑丹	1
第一章 元日本兵の帰郷	西成彦	5
第二章 越境、記憶、共存の根柢における「東洋」という概念—近代中日の知識人を中心に—	呉光輝	21
第三章 生命と共同体の記憶—『檜山節考』の世界—	林淑丹	39
第四章 張文環文学にみる保存的記憶—『山茶花』を例として—	石川隆男	63
第五章 越境するノスタルジア—東山彰良『流』におけるアウトロー像を通して—	謝惠貞	87

第六章	宇治茶と台湾烏龍茶 —三好徳三郎と日台間における茶の交流— ..... 曾齡儀 109
第七章	日本統治期台湾における「植民論」と「植民地的近代」 —後藤新平と高岡熊雄の關係に着目して— ..... 番匠健一 137
第八章	東アジア大衆観光における多元的な文化実践 —台湾の士林官邸と蔣宋家族の逸話を例— ..... 陳建源 161
人名索引	..... 193
事項索引	..... 199
編集者略歴	..... 207
執筆者紹介	..... 209

## 序文

本書は、2016年に開催された第六回日台アジア未来フォーラム「東アジアにおける知の交流—越境・記憶・共生—」にもとづく成果である。同フォーラムは、日本渥美国際交流財団関口グローバル研究会、文藻外語大学日本語文系、台湾大学日本語文学系、台湾大学日本研究センターが共同で主催し、一般財団法人ワンアジア財団などの協賛を得て実現した。

本編には八本の論文が収められている。第一編と第二編には、基調講演をいただいた西成彦教授の「元日本兵の帰郷」と、フォーラムのパネリストである呉光輝教授の「越境、記憶、共存の根柢における「東洋」という概念」を、それぞれ寄稿していただいた。そのほかの論文は、すべて二人以上の審査委員の査読を経たのちに加筆・修正のうえで収録されている。

近代以後の世界において、資本は移動する範囲を徐々に拡大し、情報化やグローバル化以後はその加速度をますます強めつつある。それは人間たちの移動と定住の布置關係に影響を及ぼし、文化変容のダイナミズムに地殻変動をもたらしている。それにより、これまで交渉のなかった人々が結びつけられる一方、境界によって区分された集団が差異化されもした。人間の共同体はさまざまな境界に接している。そこには文化、社会、政治をめぐる境界があり、さらに地理や気候といった自然に属する境界が混じりあってもいる。しかし同時に、人々の生活には種々の境界を越えていく側面もある。東アジアにおけるさまざまな文化事象を考える際にも、地域やジャンルを横断する思考

日本学叢書 27

東アジアにおける知の交流—越境・記憶・共生—

2018年5月第一刷発行

定価 NTD 560 元

編者 林淑丹・陳明姿

編集人 徐興慶

発行所 国立台湾大学出版中心 代表 王泰升

10617 台北市羅斯福路四段1号

<http://www.press.ntu.edu.tw>

TEL: +886-2-2365-9286 FAX: +886-2-2363-6905

E-mail: [ntuprs@ntu.edu.tw](mailto:ntuprs@ntu.edu.tw)

10087 台北市思源街18号澄思樓一樓

TEL: +886-2-3366-3991~3 EXT.18 FAX: +886-2-3366-9986

印刷 辰皓國際出版制作有限公司

ISBN : 978-986-35-0274-6

Printed in Taiwan

GPN : 1010700354

© National Taiwan University Press 2018

本書は国立台湾大学出版センターの学術審査を通ったものである。